

第2回埼玉県道路メンテナンス会議 レポート

令和2年1月31日、埼玉県さいたま市北区のさいたま市プラザノース多目的ルームにて、令和元年度第2回埼玉県道路メンテナンス会議が開催され、関東道路メンテナンスセンターの荒川センター長が出席して、秩父橋の直轄診断への取り組みを紹介しました。紹介の概要を以下に示します。

1. 直轄診断とは

直轄診断とは、『橋梁、トンネル等の道路施設については、各道路管理者が責任を持って管理するという原則の下、それでもなお、地方公共団体の技術力等に鑑みて支援が必要なもの(複雑な構造を有するもの、損傷の度合いが著しいもの、社会的に重要なもの等)に限り、国が地方整備局、国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所の職員で構成する「道路メンテナンス技術集団」を派遣し、技術的な助言を行う』ことです。

今回の直轄診断は、秩父市からの要請により実施され、埼玉県では初めての実施事例となります。

2. 直轄診断の実施の観点と調査の結果

直轄診断はアーチ橋という秩父橋の特徴を踏まえて、以下の3つの観点から実施しました。

- ①アーチ部材の形状が保たれていること
 - ②圧縮力が基礎地盤に伝達されていること
 - ③基礎の安定が継続的に確保できていること
- 調査の結果、以下の3つの課題が確認されました。
- ①アーチリブに、角かけや浸食により拡大したコールドジョイントが見られました。
 - ②アーチアバットを支持している泥岩に浸食が見られ、底版の一部が露出していました。
 - ③橋脚P2の基礎に最大深さ50cm、最大幅80cmの洗堀が見られました。

3. 調査結果への技術的助言

調査結果から、秩父橋を今後も継続して供用するにあたり、以下の技術的助言を行いました。

- ①アーチアバットの耐荷力の低下を防ぐための速やかな浸食の復旧とその対策が必要である。
- ②アーチリブのコールドジョイントへ橋面からの漏水等が浸水することを防ぐ必要があることを考慮しても、適切に維持管理を行うことで、今後の橋梁としての継続的な利用には支障はない。

最後に、秩父市から「一市町村ではこれほどきめ細かな調査が難しいので、補修に向けて基本的な調査がいかに重要か学んだ」というコメントも紹介されました。



報告を行う荒川センター長



ドローンによる目視を実施した際の動画も紹介



ドローンによる調査の動画に刮目する出席者



資料に熱心に目を通す